

## 28PA-pm253

(一社)所沢市薬剤師会における院外処方箋に対してのアンケート調査報告～薬局薬剤師と病院薬剤師の回答を比較して～

○加藤 剛<sup>1,2,3</sup>, 上村 浩史<sup>3</sup>, 間瀬 礼子<sup>3</sup>, 塚本 京子<sup>3</sup>, 安達 秀夫<sup>3</sup>, 齋藤 祐次<sup>3</sup>, 山本 大介<sup>1</sup>, 鈴木 順子<sup>1</sup> (<sup>1</sup>北里大薬, <sup>2</sup>所沢慈光病院, <sup>3</sup>所沢市薬剤師会)

【目的】 広範かつ的確な患者情報の入手が治療上有益であることは疑いはないが、病院では電子カルテ化が進み、患者情報の入手が容易となった一方で、薬局では「患者からの聞き取り」が主体であり、正確、的確な情報収集が困難である。以上の事情に鑑みて、薬局薬剤師及び病院薬剤師は、相互にどのような患者情報を共有すべきと考えているかについて調査検討を行ったので報告する。【方法】 無記名自己式のアンケート調査(平成29年4月14日、(一社)所沢市薬剤師会学術講演会)。内容:「処方箋と共に医師より欲しい情報」(複数回答可)。なお、この調査は所沢慈光病院倫理審査委員会の承認のもとで実施した。【結果】 有効回答数: 68例(薬局48名、病院20名)。調査結果: 処方意図(薬局66.7%、病院65.0%)、病名(薬局68.8%、病院30.0%)、検査データ(薬局58.3%、病院25.0%)、処方変更理由(薬局70.8%、病院45.0%)、服薬指導上の留意点(薬局70.8%、病院50.0%)。標本数に格差があるのでバイアスの発生は否定できない。【考察】 病院薬剤師の選択率は「処方意図」を除き、薬局薬剤師より低く、「検査データ」については両者共に非常に低い。病院薬剤師は外来患者治療に対する関心と意識が低い可能性がある。また、薬局では現状でも処方箋に付加される情報を利用しきれていない可能性が伺われる。このような問題の打開のために、病院薬剤師による院外処方箋の交付前鑑査を提案したい。病院薬剤師にとっては自ずと当該患者の治療に関心を持つことになり、処方ミス等の軽減にも寄与できる。また、薬局からの疑義照会の対応や医師への仲介も可能となり、服薬指導内容の向上につながるとともに、薬(病院薬剤部)薬(保険薬局)の連携、医-薬-薬情報トライアングルの構築等による医療内容向上を期することができるものと期待される。